

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立ゆりのき台小学校
-----	--------------

1 学校教育目標

やさしく かしこく たくましく
～豊かな自分づくりと共に生きる人間の育成～

2 今年度の学校重点目標

「子どもが安心して過ごし、自信と意欲をもって学ぶことを楽しめる学校」
「豊かな人間性・創造性を育み、互いを尊重し合い、高め合える学校」
「コミュニティ・スクールとして、家庭・地域と連携・協働しながら子どもを育てる学校」

3 総合的な自己評価

本年度も、児童アンケートと保護者アンケートの結果を参考に、保護者の声かけが子どもの育ちに大きく影響する項目について、保護者への啓発を行った。家庭での声かけの影響の大きい項目は、「学校外での読書習慣」や「地域行事の参加」、「あいさつ・物を大切に作る習慣」などである。結果は、「進んであいさつをする」「自分のことは自分でしている」「時間を意識しながら行動する」などの項目において児童、保護者ともに肯定的な評価は高い水準である。今後も保護者や地域の方々に協力をいただきながら取り組みたい。

また、今年度は、「学校は楽しいですか」の項目を新設し、子どもたちの学校生活の満足度をより詳しく把握した。約9割の子どもが肯定的な回答であった。しかし、約1割の子どもは、「楽しくない・不安がある」と答えているので、行事の精選と内容の改変をしながら、新たな学校運営に生かしていくことが重要である。今後も学校運営協議会における意見を参考にし、よりいっそう地域と連携し、地域に開かれた教育課程を具現化していきたい。

4 総合的な学校関係者評価

学校運営や授業の工夫に関する項目では、今年度もほとんどの項目で90%以上の保護者が肯定的な評価をした。日頃の取り組みが理解され、安定した学校運営ができていると考えられる。

子どもたちの様子から、主体的に学ぶ子どもの育成や地域行事に参加したくなるような魅力的な地域行事の計画などをしていく必要がある。学校では学べない「多様な世代との交流」や「社会貢献の意識」を育む貴重な機会にしていきたい。

今後はさらに学校・家庭・地域が連携をしてより良い学校運営を行っていくことが重要である。特に総合的な学習において、単年で学習を完結させるのではなく、3～6年の4年間を見通したカリキュラムを作成し、計画段階から学校支援ボランティアと連携することで、体験的な学習を通して生きて働く力を身に付けることができると考えられる。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
学校運営に関する評価	教育目標の達成を意識しながら教育活動に取り組むことができているか。	すべての教職員が学校の一員として、目標を意識し、真摯に取り組んでいた。	今後とも、組織的な対応を重視し、「チームゆりのき」として、一人ひとりの意識を高めながら、取組を継続する。	今年度の学校組織の在り方と学校運営の取組を評価している。
	教育環境が、子どもたちの学習の場として満足できるように整えられているか。	学びの継続性を大切にしたい、6年間を見通した環境整備が企図されている。	設備や備品などの物理的環境として更に整備を継続する。教室の掲示物などの教育環境の共通確認を図る。	環境面の整備、教職員の意識改革が継続的に進んでいる。今後も全職員で共通理解が図られることを期待する。
	家庭や地域の人々に対して、学校づくりに関する情報発信を適切に行い、地域との連携が深まっているか。	今年度は、配布物やホームページを通しての発信に加え、メール配信への添付による情報発信の取組を始めることができた。	学校と家庭、学校と地域の連携にとどまらず、学校運営協議会を核とした、家庭と地域の連携も進めていく。	法に基づいたコミュニティ・スクールへの移行をきっかけにして、学校運営協議会を中心としてより充実した学校・家庭・地域の連携が図られている。
教育課程に関する評価	基礎基本の定着と個に応じた学習指導の工夫ができているか。	ゆりのきスタンダードや効果的な掲示物について共通理解し取り組めた。めあてと振り返りだけではなく、途中の自分の考えを書くノート作りを通して、「思考するために書く」という「書くこと」の価値を共有できた。	授業づくりに関わるゆりのきスタンダードについて全職員が共通理解を図るとともに、授業力向上に向け、研修を充実させる。	子どもたちの思考力を深める授業を目指し、工夫を凝らした取組により、子どもたちの学ぶ意欲が向上していることを評価している。
	学習の連続性が保障され、子どもの学習過程を適切に評価し、成果を目に見える形にした学習指導ができているか。	授業づくり、学びの成果の蓄積等の研修を積み重ね、より適切な指導が実現されている。	新規採用や異動により、新しい教員が増えるため、研修を継続し、6年間を見通した指導の連続性を保障する。	掲示物やポートフォリオ等による学習の様子や成果の紹介に加え、研究会では、学校の取り組みや子どもたちの育ちがよくわかる。
	情報モラル教育を含め、タブレットPCの活用を推進することができているか。	各教科において、効果的なタブレットPCの活用について試行し実践を蓄積できた。4年生のプログラミング学習では外部人材を講師として招聘し効果的な学習を実践できた。情報モラル教育についても学年に応じた学習に取り組めた。	タブレットPCの活用をさらに推進していきたい。プログラミング学習を含め、これまでの実践を整理し、タブレットPCの活用を含めたカリキュラム構築を進めていく。	教科の学習による知識の習得だけでなく、総合学習を中心とした体験的な学習の充実により、生きて働く力を育てることは重要である。高度に情報化された社会を生きる子ども達にはタブレットPCの活用を含めた情報教育の充実が重要である。
	家庭でも読書活動の定着が図られているか。	読書通帳の活用により、子どもたちの読書の習慣が身につくにつれ、家庭での読書は、二極化の傾向にある。	読書についての教育的な効果を周知し環境を整えることなど、通信等で啓発し、学校・家庭・地域の連携を図る。	子どもだけでなく、親世代も読書離れが進んでいる。異学年交流などの活動を取り入れるなど主体性を引き出す仕組みを考える。
生徒指導に関する評価	あいさつ、掃除、その他基本的な生活習慣の確立ができているか。	あいさつ、持ち物への記名、整理整頓、姿勢保持、トイレの使い方等の基本的な生活習慣の重要性を教職員が共通理解し、学年や学級で指導にあたってきた。	記名に関して保護者への啓発を進めると共に、物を大切にする意識が児童に醸成されるよう取組を進める。	普段の生活の中で、定着を図ろうとしていることを評価する。本来、各家庭がすべき基本的なしつけの定着が二極化しているため、学校だけではなく、家庭や地域での声かけ、連携を強めていく。
	児童の問題行動に対して組織的に対応し、保護者と価値の共有を図りながら児童の変革を促すことができているか。	生活アンケート、いじめアンケートを実施。児童の現状を把握し、課題がある場合は学級・学年・個別での話合いの時間を設けた。担任だけで対応するのではなく、情報を共有し、学年・学校として組織的に対応することが徹底されている。	学校だけがすべてを担うのではなく、学校・家庭・地域が連携することで、児童の問題行動の早期発見や未然防止を図る。	教職員の見取り・いじめアンケートの分析・生徒指導など多様な観点でいじめの芽が大きくなる前に対処しようとしていること、教職員が情報を共有し、誰もが安心して学べる学校づくりを目指すことは重要である。
	関係機関との連携は適切に図られているか。「学校いじめ防止基本方針」をもとに、指導方針や指導計画を共通理解し、いじめの未然防止に努めているか。「学校いじめ防止基本方針」をもとに、指導方針や指導計画を共通理解し、いじめの未然防止に努めているか。	「いじめ見逃しゼロ」を合言葉に、重大化の未然防止に努めた。担任が一人がかかえ込むことなく、学年全体や生活指導委員会で情報を共有し、組織的な対応を行うことができた。	今後とも、組織的な対応を継続し、いじめの未然防止、早期発見、重大化防止に努めると共に、多様な問題の解決を図るため、専門的な立場からの助言をいただくなど、関係機関との連携を進めていく。	学校の外にあっても、子どもたちのトラブルは起こり、地域からいじめの兆候が発見できることがある。今後さらに学校・地域が連携し、一丸となっていじめの未然防止に努めることが重要である。

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
7月	児童・保護者・教職員アンケートを実施
12月	児童・保護者・教職員アンケートを実施
随時	スポーツカーニバル、アートフェスティバル等において、その都度アンケートをとり、評価を行う

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
6月	運動会参観 第1回評価委員会(本年度の活動計画・学校評価計画等)
10月	第2回評価委員会(今後の取り組みについての説明) 音楽会参観
11月	防災オープンスクール参観 第3回評価委員会(学校評価の観点等の説明)
2月	図工展(絵画・工作等)参観
3月	第4回評価委員会(本年度のまとめと次年度の学校経営方針)

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
4月	ホームページ	本校教育課程解説冊子「学校ガイドブック」の更新内容をホームページで公開	
3月	学校情報誌で学校評価の分析結果を配布	保護者・児童アンケートまとめ、教職員内部評価のまとめ、学校地域運営協議会の意見のまとめを公表	
	随時	各種内部評価項目および評価結果を公開	